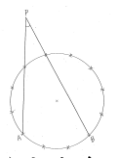


実 施 記 録



1. 日 時 : 平成26年10月4日(土) 5校時(13:40~14:30)
2. 学 級 : 3年2組40名(男子18名, 女子22名)
3. 授業者 : 中木 俊宏 先生(広島県立広島中・高等学校)
4. 教 材 : 円周角の定理の逆
5. 本時の目標 条件を満たす点が, 同一円周上にあることに気づき, その円を円周角の定理を利用してかくことができる。

学習内容	○学習活動	◇指導上の留意点(◆「努力を要する」生徒への指導の手立て)	評価規準【観点】
展開① (25分)	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">円周上の印は円周を12等分した印です。図中の$\angle APB$の大きさを求めなさい。</div> ○角の大きさを求めた生徒が自分の考えを発表する。 ○円周角の定理を振り返る。	◇プリントを配布し, 各自で問題を解かせる。 ◆補助線を引いてみるとよいことを伝える。 ◇発表する生徒のプリントを映像に映し, 考え方を全体で共有する。 ◇多くて2名の生徒に発表させ, 時間をかけない。	 与えられた角の大きさを求めることができる。【 数学的な技能 】
展開② (22分)	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">$\angle APB$と大きさが等しい角を円外にとるとき, これらの点や点A, Bはどのような図形の上にありますか。</div> ○自分の予想をたてる。 ○各点を通る円をかく。 ○隣同士で考え方を相談する。 ○円のかき方を発表する。 ○図の特徴を利用し, 円の中心がかけることを確認する。	◇生徒に挙手させて, 生徒の予想を共有する。 ◇円という意見を取りあげ, この予想が正しいかどうか, 実際に円をかかせて検証させる。 ◇円をかくためには中心が必要であることを確認し, どのように中心をとればよいのか考えさせる。 ◇発表する生徒のプリントを映像に映し, 考え方を全体で共有する。	条件を満たす点が, 同一円周上にあることに気づき, その円をかくことができる。【 数学的な見方・考え方 】
まとめ (3分)	○円周角の定理の逆を確認する。	◇円周角の定理の逆についてまとめたカードにより, 考え方をおさえる。	

【協議会】(14:40~16:45)

1. あいさつ(広島県中学校教育研究会数学部会長:山本 光信校長 先生)
2. 授業者から(広島県立広島中・高等学校:中木 俊宏 先生)
3. グループ協議 [Aグループ:教材検討グループ, Bグループ:発問分析グループ]
 ~司会進行をAグループ:甲斐 章義 先生(広島大学附属福山中・高等学校)
 Bグループ:中本 和彦 指導主事(広島市教育委員会)~
4. 授業・協議会のまとめ(廿日市市教育委員会:岡寺 裕史 指導主事)
5. 会のまとめ(東雲中学校副校長:佐伯 陽 先生) 6. 諸連絡(東雲中学校:天野, 河寄)

【参加者(敬称略)26名】

山本 光信 (広島県中学校教育研究会数学部会長)	岡寺 裕史 (廿日市市教育委員会 指導主事)
中本 和彦 (広島市教育委員会 指導主事)	田頭 かおり (広島市立観音中学校 指導教諭)
甲斐 章義 (附属福山)	岩知道 秀樹 (附属福山)
富永 和宏 (広島大学附属)	森脇 政泰 (広島大学附属)
橋本 三嗣 (広島大学附属)	奥田 努 (尾道市立久保中学校)
西森 千博 (三次市立三和中学校)	藤澤 拓久 (東広島市立高美が丘中学校)
前田 大輔 (熊野町立熊野中学校)	松井 善行 (呉市立昭和中学校)
中木 俊宏 (広島県立広島中学校)	西川 沙菜恵 (広島県立広島中学校)
吉田 修久 (広島市立瀬野川中学校)	道閑 由紀子 (広島市立美鈴が丘中学校)
川口 あけみ (広島市立砂谷中学校)	紙本 裕一 (広島大学大学院教育学研究科)

ほか院生・学生6名